

## 小西化学、化学品試作プラント 電子材・光学材向け

(2018/7/13 05:00)

小西化学工業(和歌山市、小西弘矩社長、073-425-0331)は、2018年秋に電子材料や光学材料向け化学品の試作プラントを本社敷地内に新設する。総投資額は約15億円の見通し。主力の受託製造やスーパーエンジニアリング樹脂原料に次ぐ新規事業を創出する狙いがある。材料開発力を磨き、顧客に“機能”を提案する開発営業を強化したい考え。

新設する試作プラントには第1弾としてケイ素系製造設備を導入する。現在フル稼働状態である既存の試作プラントで行っている無機材料開発を移管する。試作プラントは1回の使用ごとに異物混入を防ぐために反応釜などを洗浄する必要があり、特に有機と無機材料の切り替えは手間がかかる。新棟の建設により材料開発全体の効率化につなげる。

その後は新棟に有機材料系の設備も順次増設して、同社が力を入れる研究開発テーマ「有機・無機ハイブリッド材料」の一大拠点にする方針。

有機・無機ハイブリッド材料とは、無機系の強みである電気特性や光学特性、耐熱・耐候性に、有機系が持つ設計自由度の高さを組み合わせた材料。半導体やプリント配線基板、光学部品、自動車窓のコーティング材などの用途が期待される。

小西化学は本社と、量産担当の福井工場(福井県坂井市)の2拠点体制を敷く。福井工場では航空機用炭素繊維複合材料で使うエポキシ樹脂の受託製造に加えて、スーパーエンジニアリング樹脂のポリエーテルスルホン(PES)原料のジヒドロキシジフェニルスルホン(DHDPS)を手がける。

同社は1962年創立で、現在の従業員が123人。18年3月期の売上高は42億円。



新設する試作プラントにケイ素系製造設備を導入する(小西化学工業本社)